

令和5年度 伊勢市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告

令和6年5月

伊勢市（三重県）

○計画期間：令和3年4月～令和8年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和5年度終了時点（令和6年3月31日）の中心市街地の概況

本市では、第1期伊勢市中心市街地活性化基本計画により徐々に広がってきた賑わいを、中心市街地全体の更なる活性化へと繋げるため、第2期計画を策定し、46事業に取り組んでいる。

3年目となる令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類感染症に移行されたことにより、市内を訪れる観光客や中心市街地の宿泊者数の増加、各商店街でのイベント再開など、平常時の生活を取り戻しつつあるといえる。

伊勢神宮（内宮・外宮）参拝者数は、令和4年の約600万人に対し令和5年は約720万人と約20%増加し、今後は第63回神宮式年遷宮へ向けた諸行事が始まり機運も高まってくることから、参拝者や観光客の更なる増加が見込まれる。

また、中心市街地内の宿泊者数については、令和元年度を上回る結果となり、「伊勢市駅前地区第一種市街地再開発事業（B地区）」で建設した複合ビルにおいて宿泊施設が開業されたことも、ひとつの要因として考えられる。ハード事業についても、「伊勢市駅前C地区第一種市街地再開発事業」や「宮後1丁目1号線整備事業」、「宮後浦口線整備事業」など、順調に進捗している。

一方で商店街では、中止や縮小していた各イベントを再開し大きな賑わいを創ったものの、平時における歩行者通行量は減少傾向にあり、日常的な賑わいの創出が課題となっている。

今後も、人々が集い賑わいのあるまちにするため、ハード事業とソフト事業を引き続き実施するとともに、伊勢まちづくり株式会社を中心となり、官民連携した魅力あるまちづくりを進め、中心市街地の活性化に繋げていく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

（基準日：毎年度1月1日）

（中心市街地 区域）	令和2年度 （計画前年度）	令和3年度 （1年目）	令和4年度 （2年目）	令和5年度 （3年目）	令和6年度 （4年目）	令和7年度 （5年目）
人口	7,323人	7,162人	7,015人	6,877人		
人口増減数	△177人	△161人	△147人	△138人		
自然増減数	△93人	△112人	△126人	△145人		
社会増減数	△84人	△49人	△21人	7人		
転入者数	200人	191人	242人	302人		

※人口増減数・自然増減数・社会増減数・転入者数については、前年度の基準日から当該年度内の基準日までの1年間の変動数を記載している。

(2)地価 (単位：円/㎡)

	令和2年度 (計画前年度)	令和3年度 (1年目)	令和4年度 (2年目)	令和5年度 (3年目)	令和6年度 (4年目)	令和7年度 (5年目)
中心市街地内 商業地域 (一之木2丁目 2280番)	50,500	49,400	48,500	48,000		
中心市街地内 商業地域 (本町426番 2)	142,000	142,000	142,000	142,000		
中心市街地隣接 第一種住居地域 (常磐1丁目 1160番)	49,400	48,700	48,200	47,800		
中心市街地隣接 近隣商業地域 (岩淵1丁目 712番)	70,500	69,600	68,900	68,500		

2. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

第2期伊勢市中心市街地活性化基本計画の3年目となった令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことにより、中心市街地での多くのイベントが再開されるなど、活性化への取り組みが多く実施された。

伊勢市の玄関口である伊勢市駅前では、第1期伊勢市中心市街地活性化基本計画の主事業であった「伊勢市駅前地区第一種市街地再開発事業（B地区）」によって建設された複合施設の本格稼働、さらに当期の「伊勢市駅前C地区第一種市街地再開発事業」も順調に進捗し、本基本計画の核ともいべき駅前再開発は、新型コロナウイルス感染拡大などの様々な障壁を乗り越えて一往の目途が立ったと判断できる。また、今後も「宮後1丁目1号線整備事業」などによる商店街の魅力向上が計画されていることから、同地区の活性化だけでなく、周辺地区への波及効果にも期待している。

商業の活性化とまちなか回遊性の向上にかかる指標『歩行者通行量』は、基準値を下回っているが、高柳の夜店に代表される商店街等の市内イベントでは、若年層の来場も目立ち、以前より活気に満ちた姿が見受けられた。これは「商店街等振興対策事業」によって設置したAIカメラで捉えられ、年齢層の割合、歩行者通行量の増減が数値化されて商店街の企画検討の際に参考にされている。しかし、これらのイベント終了後は、歩行者通行量もイベント開催前まで戻っていることも浮き彫りになっており、日常のにぎわい回復のためには、イベント時だけではない日々の商店街各個店の取組みも必要である。

また、指標『中心市街地の新規出店数』では、商店街での新規出店数が基準値の年平均10店舗を下回って6店舗であった。新規出店数だけでなく、令和5年度より「商店街空き店舗対策支援事業」に新たに盛り込まれた、貸せる空き店舗創出のための空き店舗所有者への支援も1件に留まっている。しかし、これまでに寄せられた相談件数や次年度の申請見込数を勘案すると、支援制度の周知は図られていると考えられ、今後は要件となっている居住の有無など、所有者が抱える課題や実情に対応していくことで支援件数は増加すると見込んでいる。

目標値をわずかに下回る結果となった都市機能の強化と活発な地域活動によるまちなか移住の促進にかかる指標『中心市街地の居住人口の社会増減』は、駅前C地区の分譲住宅の供給によって改善は見込めるが、「空家対策事業」、「空家総合事業」などの補助制度に、中心市街地活性化区域に対するインセンティブを設定することで更なる効果が期待できると考える。また、基準値を下回った観光の取組による中心市街地のにぎわい向上にかかる指標『観光関連施設等の利用者数』についても、今後は第

6 3 回神宮式年遷宮を迎えるにあたり、全国の方々が訪れる機会も増加することから改善が見込まれる。目標達成のため、中心市街地でこれら新規居住者や観光客が賑わう仕組みを構築することが重要であるが、市民が日常利用する中心市街地主要道路、及び居住人口が増加傾向にある小俣地区などと中心市街地を結ぶ道路の渋滞緩和など、地域全体の移動効率化を推進することも、今後の中心市街地活性化を考える上では重要である。

残り2年となった本計画の実現のためには、これまで以上に当協議会と実施団体の密な情報交換が重要であり、専門的知識を持って各々の課題を整理し、事業に寄り添うタウンマネジメント機能の充実が必要と考える。また、商店街への回遊の誘引、新規出店支援だけでなく、海外富裕層を誘客できるような世界的ホテルの誘致や、中心市街地における用地、施設の活用についても検討、事業提案していく必要がある。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの達成状況	前回の見通し	今回の見通し
商業の活性化とまちなか回遊性の向上	歩行者通行量	3,943 人 (H30 年度)	4,140 人 (R7 年度)	2,957 人 (R5 年度)	C	①	①
	新規出店数	50 店舗 (H27～R 元合計)	55 店舗 (R3～R7 合計)	6 店舗 (R5 年度) 28 店舗 (R3～R5 合計)	C	①	①
	【参考指標】 中心市街地の新規出店数	-	-	85 店舗 (R5 年度)	-	-	-
	【参考指標】 中心市街地 区域内全体 店舗数	1,406 店舗 (R2 年度)	-	1,369 店舗 (R5 年度)	-	-	-
都市機能の強化と活発な地域活動によるまちなか居住の促進	中心市街地の 居住人口の 社会増減	△177 人 (H27～R 元合計)	±0 人 (R3～R7 合計)	△2 人 (R5 年度) △76 人 (R3～R5 合計)	B	①	①
観光の取組による中心市街地のにぎわい向上	観光関連施設等の利用者数	49,337 人 (H27～R 元年平均値)	53,300 人 (R7 年)	44,264 人 (R5 年)	C	①	①
	【参考指標】 中心市街地 内宿泊施設 の宿泊者数	322,900 人 (R 元年)	-	384,626 人 (R5 年)	-	-	-

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

<目標達成に関する見通しの分類>

- ① 目標達成が見込まれる（関連する事業等の進捗状況が順調）
- ② 目標達成が見込まれない（関連する事業等の進捗状況が順調）
- 1 目標達成が見込まれる（関連する事業等の進捗状況が順調でない）
- 2 目標達成が見込まれない（関連する事業等の進捗状況が順調でない）

2. 目標達成見通しの理由

「歩行者通行量」について、基準値を下回り、令和3年度から減少し続ける結果となった。伊勢市駅前C地区第一種市街地再開発事業における既存店舗の移転や閉店があったことが、ひとつの要因であると考えられる。今後、「伊勢市駅前C地区第一種市街地再開発事業」の完了に伴い、新規居住者や新規出店が見込まれることから、新たな賑わいの創出に繋がると考えられる。また、商店街の道路再整備や各商店街の様々な工夫により、魅力を向上させ、来訪意欲と来街者の回遊意欲の増進を図ることで、最終年度である令和7年度末における目標達成は可能であると見込まれる。

「新規出店数」について、目標値（55店舗／5箇年）の年平均である11店舗を下回る結果となった。空き店舗所有者への補助金について、相談件数は10件以上あったことから、徐々に制度の周知が図られており、来年度の実績に繋がると考えられる。さらに、空き店舗所有者への補助制度について、周知、改善を進めるとともに、「創業支援事業」や「商店街等振興対策事業」等の支援を引き続き実施することで、目標達成は可能であると見込まれる。

「中心市街地の居住人口の社会増減」について、令和5年度は2人減少した。今後、「伊勢市駅前C地区第一種市街地再開発事業」による分譲住宅の供給により、大きな居住人口の社会増が見込まれる。また、「空き家対策事業」、「空家総合事業」、「木造住宅耐震補強等事業」の空家利活用による効果も期待され、目標達成は可能であると見込まれる。

「観光関連施設等の利用者数」について、基準値を下回る結果となったが、参考指標である「中心市街地内宿泊施設の宿泊者数」、伊勢神宮（内宮・外宮）参拝者数とともに、令和4年から大きく数字を伸ばしている。また、第63回神宮式年遷宮へ向けた諸行事が始まり機運も高まってくることから、参拝者や観光客の更なる増加が予想される。今後、関連事業を継続して実施し、観光客を中心市街地に呼び込むことで、目標達成は可能であると見込まれる。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

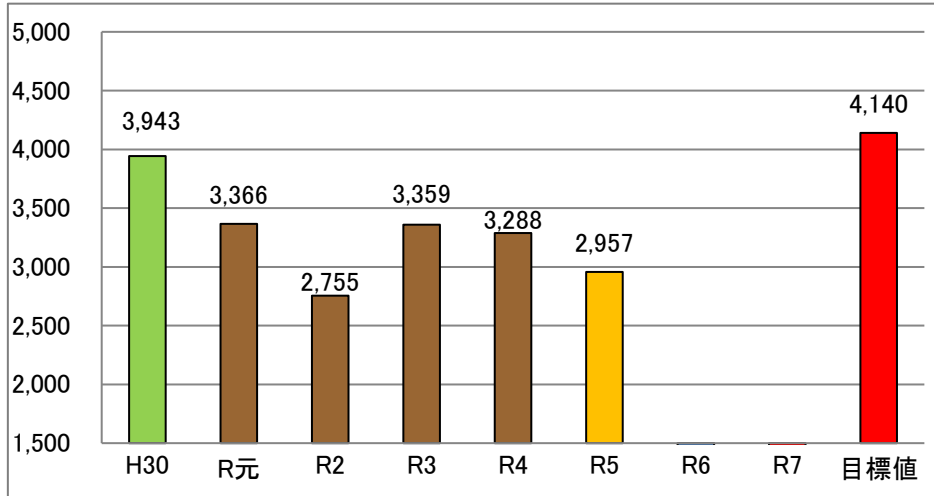
前回から変更はない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「歩行者通行量」(目標の達成状況【C】)

※目標設定の考え方認定基本計画 P76～P83 参照

●調査結果と分析



年度	(人/日)
H30	3,943 (基準値)
R元	3,366
R2	2,755
R3	3,359
R4	3,288
R5	2,957 (最新値)
R7	4,140 (目標値)

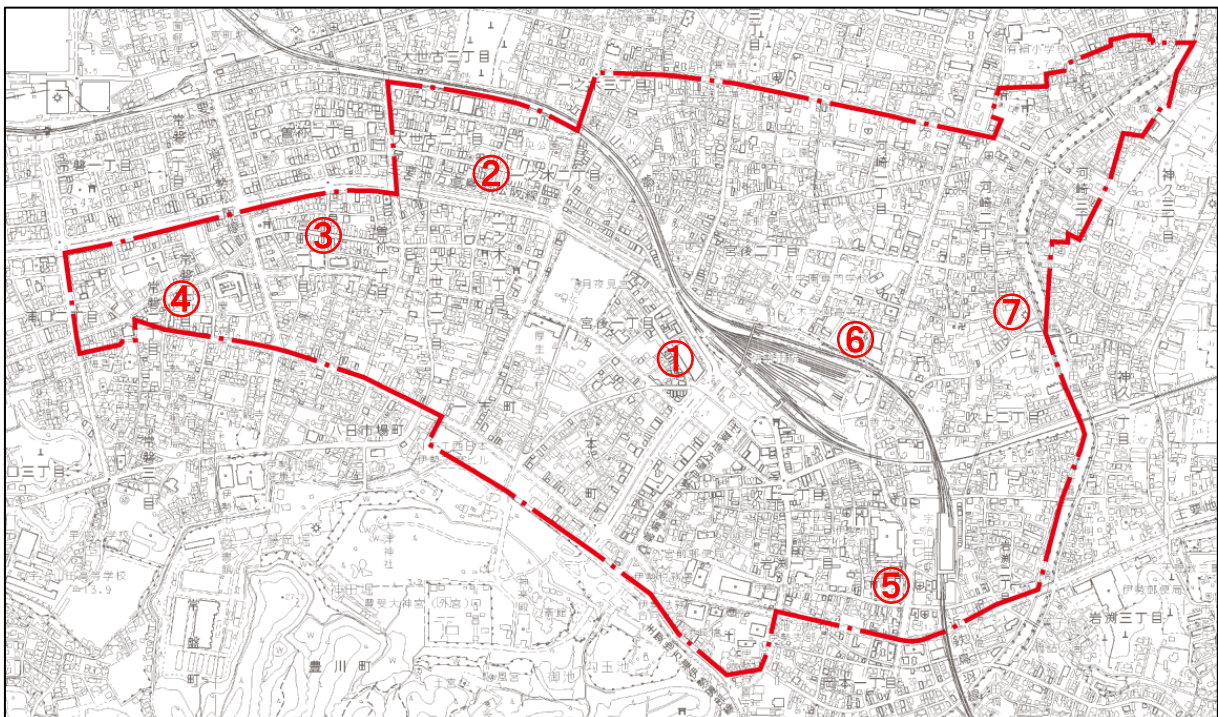
※調査方法：土曜日の9時～18時に中心市街地内の7地点を通過する歩行者及び自転車を計測

※調査月：令和6年3月

※調査主体：伊勢市

※調査対象：中心市街地活性化区域内の商店街に設けた5地点及び伊勢市駅以北の市道2地点の歩行者及び自転車の通行量

図 歩行者通行量の調査地点



① 伊勢市駅前商店街 中央	⑤ 明倫商店街 西
② 伊勢銀座新道商店街 中央	⑥ 市道北口線
③ 伊勢高柳商店街 中央	⑦ 市道外宮二見線
④ 浦之橋商店街 西	

歩行者通行量の調査結果

(単位:人)

	R2年度 (計画前年度)	R3年度 (1年目)	R4年度 (2年目)	R5年度 (3年目)	R6年度 (4年目)	R7年度 (5年目)
①伊勢市駅前商店街 中央	615	770	658	562		
②伊勢銀座新道商店街 中央	424	498	504	514		
③伊勢高柳商店街 中央	541	450	640	479		
④浦之橋商店街 西	308	343	280	320		
⑤明倫商店街 西	150	265	283	216		
⑥市道北口線	433	712	592	528		
⑦市道外宮二見線	284	321	331	338		
合計	2,755	3,359	3,288	2,957		

〈分析内容〉

「歩行者通行量」について、基準値を下回る 2,957 人となり、令和 3 年度から減少し続ける結果となった。

「①伊勢市駅前商店街 中央」では、令和 4 年度より通行量が減少し、伊勢市駅前 C 地区第一種市街地再開発事業における既存店舗の移転や閉店があったことが、ひとつの要因であると考えられる。「③伊勢高柳商店街 中央」では、商店街が開催したイベントで多くの集客があったが、令和 4 年度よりも減少する結果となり、来訪意欲や回遊意欲を増進することが課題と考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 伊勢市駅前 C 地区第一種市街地再開発事業（民間事業者）

事業実施期間	令和元年度～令和 7 年度【実施中】
事業概要	伊勢市駅前地区の再開発事業により、商業・住宅などの都市機能の更新を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（令和 2 年度～令和 7 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 +230 人 令和 6 年 1 月に解体工事が完了し、本体の建築工事に着手した。また、B 地区 1 階においてマンション販売センター（マンションギャラリー）を開業するため、令和 6 年 3 月から内装工事に着手した。
事業の今後について	令和 6 年度から分譲を開始する予定。 また、令和 8 年 2 月に建築工事が完了する予定。

②. 宮後1丁目1号線整備事業（伊勢市）

事業実施期間	令和元年～令和7年度【実施中】
事業概要	伊勢市駅を中心とした地域の道路を再整備する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（中心市街地活性化区域）（国土交通省）（令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 +32人 人々が集い賑わえる開放的な道路の再整備を行うため、関係機関協議や地元商店街と意見交換を実施し設計を進め、2期工事の発注を行った。
事業の今後について	再開発事業者等関係機関と工程調整を図り、令和6年度の事業完成に向け整備を行う。

③. 宮後浦口線整備事業（伊勢市）

事業実施期間	令和3年度～令和5年度【済】
事業概要	伊勢銀座新道商店街の通りを景観に配慮した舗装に整備する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（中心市街地活性化区域）（国土交通省）（令和3年～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 +40人 他工事や地元商店街と調整を図り、景観・透水機能を有したブロック舗装工事に着工したほか、休憩施設としてのベンチ設置や排水暗渠を活かしたグレーチングスリット設置により住環境の向上など、人々が集い憩える道路空間の整備を行った。
事業の今後について	令和6年3月25日の舗装工事完成に伴い、事業が完了した。

④. 公共交通機関とのタイアップキャンペーン事業（伊勢市）

事業実施期間	平成26年度～【実施中】
事業概要	公共交通機関とタイアップし、旅行商品と連動させたポスター等を作成し、主要駅のポスター枠やデジタルサイネージ等に掲出する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和3年4月～令和8年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	東海旅客鉄道とのタイアップによる東京駅等でのポスター展開について、上期（4月～9月）は4月～9月に、下期（10月～3月）は11月から掲出した。また、連動する旅行商品については、上期4,438件、下期5,063件の販売実績となり、市内における特典のクーポン引換実績については、上期2,515件、下期3,064件であった。新型コロナウイルス感染症が収束し、旅行需要が大きく回復したため、昨年度と比較して実績が増加している。
事業の今後について	令和6年度上期（4月～9月）事業は調整済みで、継続して事業を推進していくとともに、下期（10月～3月）についても事業継続に向け調整する予定である。

⑤. 着地型旅行商品造成事業（伊勢市）

事業実施期間	平成 17 年度～【実施中】
事業概要	事業企画、旅行商品造成及びその販売促進を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	旅行商品の販売実績は 21,367 件であり、新型コロナウイルス感染症が収束し、旅行需要が大きく回復したため、昨年度と比較して実績が増加している。なお、今年度は新たな取り組みとして、SNSを活用した割引キャンペーンを実施した。
事業の今後について	令和 6 年度事業は調整済みのため、継続して事業を推進するとともに、クーポン内容のブラッシュアップや第 63 回神宮式年遷宮を見据えた旅行商品の開発を検討する。

⑥. 文化資源保存活用事業（伊勢市）

事業実施期間	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	「伊勢市全市博物館構想」に基づき、市全体を大きな博物館としてとらえ、全域に広がる博物館や自然・文化資産などを相互に連携させて有効活用を図る。各施設における企画展示や催し物の開催、季節に応じた見どころなどの情報発信、郷土資料館の整備などにより、誘客を図り、にぎわいを創出するものであり、中心市街地の活性化に必要な事業である。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月） 中心市街地再活性化特別対策事業（総務省）（令和 6 年度～令和 7 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	「伊勢まるごと博物館スタンプラリー」は市内外の博物館施設等にパンフレットを設置し、参加を案内しており、3 施設以上まわった参加者 19 人に記念品を配布した。令和 6 年 2 月から、伊勢市へ転入された方に対して、賓日館、伊勢河崎商人館、尾崎罌堂記念館へ無料で入館できるチケットを配布する取り組みを開始した。 「夏休み博物館イベント」は、複数の施設で子ども対象の企画を催し、500 人を超える参加があった。 また、いせ市民活動センターを会場とし、造船の歴史を紹介するための企画展「大湊 船と人」を開催し、500 人を超える来場があった。 令和 7 年度中の郷土資料館の開設に向けて、整備内容を検討するための専門委員会を設置し、基本計画の策定業務に着手した。
事業の今後について	各博物館施設において、市民等に関心の高い催しの企画や、子どもの施設利用を促す企画等、来館者の増加につながる取組を進めていく。 郷土資料館の開設に向けて、令和 6 年度中に基本計画を策定し、整備工事の詳細設計を行う。

⑦. 商店街等振興対策事業（伊勢市、伊勢まちづくり株式会社）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	消費者に魅力ある商店街づくりのために行う事業に対して補助をする。また、中心市街地において商店街等が行うイベント等を、伊勢まちづくり株式会社が情報発信する。さらに、商店街等における歩行者通行量調査について、AI カメラを活用した実証実験を行い、得られたデータを分析活用するとともに、その効果を検証する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（中心市街地活性化区域）（国土交通省）（令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	新型コロナウイルス感染症収束後の地域活性化や消費喚起のために実施する商店街等の継続事業に対し、令和5年度に限り「商業まちづくり補助金」を増額することとした。商店街等が実施するイベントへ、新規事業3件、継続事業3件、合計6件の補助金交付を行った。 また、AIカメラ事業については、毎月のデータを商店街等各団体に共有したほか、イベント開催時の歩行者通行量や年齢層、性別などのデータを収集・分析し、分析結果を基にした商業活性化に向けた取り組みを商店街が検討するなど、データの有効活用を図った。
事業の今後について	令和6年度は、「商業まちづくり補助金」にて引き続き商店街のイベント支援を行い、AIカメラ事業では全9ヶ所のうち4ヶ所を撤去し、残りの5商店街にて事業を継続する。

⑧. まちなか案内事業（伊勢商工会議所ほか）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	お伊勢さん観光案内人(商工会議所事業)、お伊勢さんまち歩きクーポン(まちづくり会社)等、地元住民から観光客まで、まちなかを案内するサービスを提供する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	「お伊勢さん観光案内人」事業は、新型コロナウイルス感染拡大対策として内宮のみの案内に留めていたが、令和 5 年 9 月より両宮案内を再開した。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、停止していた案内人の新規募集及び研修も再開した。 「お伊勢さんまち歩きクーポン」は『地域資源を活かした商品開発事業』の「河崎蔵まちへの招待状」、「伊勢二見まち歩きクーポン」を統合して販売した。しかし、アプリの改善点を精査した結果、既存開発会社での改善が見込めないことから、令和 6 年 3 月 31 日をもって「お伊勢さんまち歩きクーポン」としての販売を終了した。
事業の今後について	「お伊勢さん観光案内人」事業は、両宮案内を再開したが、外宮のみの案内時の集金拠点は、新型コロナウイルス感染症の影響により無くなったこと等から再開時期を未定としている。 「お伊勢さんまち歩きクーポン」については、令和 6 年 4 月から「お伊勢さんまち歩きチケット」として、近畿日本鉄道(株)が運営するデジタルチケットサービス『ぶらりすと』で販売する。

⑨. 河崎まちなみ魅力創出事業（伊勢河崎まちづくり衆ほか）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	かつて問屋街として栄えた河崎地区にて、登録有形文化財の伊勢河崎商人館の活用(だいどこ市、商人市ほか)や、勢田川を活用した事業の実施、さらに地区内の歴史的空町家・空蔵等の活用を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	空町家・空蔵の活用促進として、分散型ホテル事業が観光庁の高付加価値化事業に採択された。 また、まちかど博物館「和具屋」等の河崎の文化財的資料の調査を継続し、伊勢河崎商人館において河崎の生活文化の研究報告を行うイベントを開催して魅力を発信したほか、だいどこ市を継続して実施し、新規出店者の増加、若い客層による活性化を実感している。
事業の今後について	空町家・空蔵を活用した分散型ホテル事業の構築に向けて、民間事業者と共に協議を重ね、令和 7 年度の開業を目指す。

⑩. 伊勢市駅前商店街活性化事業（伊勢市駅前商店街振興組合）

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	組合活動と商店街地区活性化のため、組合の既存ビジョン・プランの更新、市街地再開発事業の事業者との連携を継続することで、伊勢市駅前の新たなにぎわいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	『商店街等振興対策事業』と連携し、伊勢市健康福祉ステーション開業の令和 5 年 5 月 13 日、伊勢まつりの令和 5 年 10 月 8 日に「伊勢市駅前商店街令和 5 年度活性化事業」を行った。同事業では、観光客向けであった商店街マップを伊勢市民向けのマップに刷新したほか、商店街において「地元になぎわい抽選会」も実施して PR に努めた。
事業の今後について	新マップ等を利用し、今後も商店街のアピールに努める。

⑪. しんみち未来創造事業（伊勢銀座新道商店街振興組合）

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	商店街の将来像を定めた既存ビジョンの更新、またこれに基づいた組合事業を継続し、複数ある空き店舗の削減、来客数の増加を目指し、商店街の魅力向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 5 年 7 月 22 日に 4 年ぶりとなる「伊勢の夜祭り」を開催して多くの人で賑わった。同日の歩行者通行量は 4,600 人であった。 また、令和 5 年 10 月 7 日、8 日の伊勢まつり開催時には、4 年ぶりとなる「テント市」「屋台村」と、新規イベントとして「伊勢名店会テント市」を開催したほか、令和 5 年 12 月から令和 6 年 1 月には「しんみちイルミネーションプロムナード」を継続して開催。点灯式では宇治山田商業高等学校と共にミニゲームなどで楽しむイベント「山商×しんみちフェスタ」を行い、新道商店街として集客の強化及び、観光客の取り込みを図った。
事業の今後について	今後も夏の「伊勢の夜祭」と冬の「しんみちイルミネーションプロムナード」を新道商店街のイベント二本柱として継続して開催するほか、これらのイベントで収集した歩行者通行量データを基にイベントの分析にも取り組む。

⑫. 繋ぐ高柳希望の風事業（伊勢高柳商店街振興組合）

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	平成 30 年に発生した商店街中心部の火災事故跡地である被災空地の利活用を主として作成した商店街ビジョンを基に、被災空地活用の事業検討、減少する組合員数、増える空き店舗等の課題へ取組み、100 年以上の歴史をもつ商店街を次世紀へと繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 5 年度は 4 年ぶりに「高柳の夜店」を開催。これまで以上に 10 代から 20 代の若者が多く集まり、開催期間中の歩行者通行量は延べ 15 万人、前年の約 7 倍となった。 「高柳の夜店」実施後の 7 月 14 日から 17 日は「商店街等振興対策事業」の商業まちづくり補助金を利用し、新規イベントとして「大人の夜店・ビアガーデン」を 20 代から 40 代の年齢層をターゲットにして開催。同期間の歩行者通行量は約 4 千人であった。 伊勢まつりに合わせた令和 5 年 10 月 7 日～9 日には 5 年ぶりとなる「いただきフェス」を開催し、歩行者通行量は 4 万人を記録するなど、新型コロナウイルス感染症の影響からの賑わいの回復を実感した一方で、前年からの継続イベントとなった令和 5 年 11 月 17 日から 28 日に開催した「第 2 回北海道フェア」では、1 日当たりの歩行者数が前年比の 26%に落ち込むなど、課題を残す結果となった。
事業の今後について	大盛況となった伊勢の夏の風物詩「高柳の夜店」や、伊勢まつりに合わせた「いただきフェス」を継続して開催し、高柳商店街のイベント三本柱としての確立を予定していた「北海道フェア」の課題を精査し、商店街の活性化に向け今後のイベントのあり方を検討する。

⑬. 空家対策事業（伊勢市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	移住者等を対象とした空家の活用促進を通じて、空家の再利用と移住者等の定住による人口増を図る。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（中心市街地活性化区域）（国土交通省）（令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	本年度は、空家バンク制度について、周知啓発に取り組み、30件の空家が新規に物件登録されたが、中心市街地活性化区域内の空家については、処分困っていない、又は空家バンク制度以外で売却等をしている等の要因により、新規物件登録は無く、登録済物件（1件）においては、物件の状態及び金額等の要因により、再利用等はされていない。 また、令和5年度新設の空家リフォーム促進事業補助金について、8件に対し補助を行ったが、中心市街地活性化区域所在物件の申請は無い状況である。
事業の今後について	本年度に引き続き、チラシ等により空家バンク登録の促進及び空家リフォーム補助の周知啓発を行い、空家所有者等の利活用に関する意識の向上及び空家の再利用の促進を図っていく。また、移住希望者及び不動産関係団体に対して、空家リフォーム補助及び令和6年度新設予定の空家購入補助について周知を行っていく。

⑭. 空家総合事業（伊勢市）

事業実施期間	平成29年度～【実施中】
事業概要	空家の適正管理の周知、実態調査、危険空家の除却推進等、計画的な空家対策を推進する。
国の支援措置名及び支援期間	空き家対策総合支援事業（国土交通省）（令和2年度～）
事業目標値・最新値及び進捗状況	本年度は、第2期伊勢市空家等対策計画に基づき、空家の適正管理の啓発について、固定資産税納税通知書約6万通へのチラシ同封、及び被保険者死亡による保険料の変更通知である後期高齢者医療保険料額決定納入通知書約1,500通へのチラシ同封を行うなど、空家対応を促すよう広報周知を実施した。また、危険度が高いと判断された物件から所有者の調査を実施し、管理依頼を行っており、老朽化した危険な不良空家7件（うち中心市街地活性化区域内3件）に対し除却補助を実施するなど、周辺地域の居住環境の向上に寄与することができた。
事業の今後について	本年度に引き続き、空家法及び第2期伊勢市空家等対策計画に基づき、管理不全空家の所有者に管理依頼を実施し改善を求めるとともに、老朽化した危険な空家について早期除却をより促進することで居住環境の向上を図っていく。

⑮. まちなか移住創業促進事業（伊勢市中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	伊勢市・商工会議所・まちづくり会社等の関係機関が連携し、主に市外、県外からの移住希望者を対象に、創業、就業、子育て支援等施策の PR や企画の検討、実施を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	伊勢市(企画調整課、商工労政課、住宅政策課、都市計画課)・伊勢商工会議所・伊勢まちづくり(株)が出席する「移住創業促進会議」を月 1 回の頻度で実施。以下について情報共有・意見交換を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・三重県主催の大都市圏での相談会・説明会へのエントリー調整 ・空き家バンク制度、空き家に関する補助制度等の調整 ・市内企業インターンを促すための事業、補助制度等の調整 ・産官学連携事業に関するシビックプライド醸成事業の調整 ・創業・移転促進補助金制度の情報交換 ・移住 PR 動画の企画調整 ・地域おこし協力隊制度の情報交換
事業の今後について	移住創業促進会議を継続し、各団体が連携することで、各々が取り組む移住・創業に関連する施策、事業の調整、改善を行っていく。

⑯. アクティブ・アート推進事業（伊勢市）【令和 4 年度追加】

事業実施期間	令和 5 年度～【実施中】
事業概要	伊勢に想いを寄せるクリエイターや、地域の若手クリエイターなどに創作活動の場を提供し、市の伝統工芸などを活用した作品展示や演奏会等を開催することで、新たな市の魅力発信や商品開発に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 5 年 4 月～令和 8 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	クリエイターが描いた外宮に関連するお社のイラスト 18 点（9 種類×2 点ずつ）を伊勢和紙にプリントし、外宮参道の行灯へ展示した。 外宮参道の店舗と連携し、バロック真珠を使用したアート作品の展示や、伊勢をテーマにしたカルタの原画展示とワークショップを開催し、あわせて約 260 人の観覧があった。
事業の今後について	店舗やギャラリーを活用して、市の伝統工芸などの作品展示を企画することで、市民が身近な場所で文化芸術に触れる機会を創出し、まちなかでの回遊につなげていく。

⑰. 伊勢市健康福祉ステーション利用促進事業（伊勢市）【令和4年度追加】

事業実施期間	令和5年度～【実施中】
事業概要	市街地再開発事業により、民間事業者が施行した伊勢市駅前地区の施設に入居する伊勢市健康福祉ステーションの利用者の駐車料金を無料化する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和5年5月8日に開設した伊勢市健康福祉ステーションは、駐車場の利用を無料とし、令和6年3月末時点で延53,968人の来所者がある。特に、乳幼児が保護者と共に遊ぶことができ、自宅から施設まで雨天時も濡れずに利用できる「駅前子育て支援センターキッズ☆もっとテラス」では、オープンから約3か月半で1万人の利用者を迎えるなど、駅前への人流拡大に貢献した。
事業の今後について	引き続き伊勢市健康福祉ステーションの利用者については駐車場無料化を継続し、全市民の健康と福祉を総合的に支援する施設として事業を継続し、駅前への来訪者拡大に寄与する。

⑱. 都市機能再生促進事業（伊勢市駅前地区）（伊勢市）【令和4年度追加】

事業実施期間	令和5年度～【実施中】
事業概要	伊勢市駅周辺の賑わい創出と中心市街地の活性化を図ることを目的に施行された都市機能再生促進事業の施行者や店舗営業者等に対し、都市機能再生奨励金制度に基づいた奨励金を交付する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和5年4月～令和8年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和5年6月に、伊勢市駅前地区第1種市街地再開発事業（B地区）の施行者に対し、都市機能再生奨励金制度に基づいた奨励金を交付した。
事業の今後について	引き続き、都市機能再生促進事業の施行者や店舗営業者等に対し、奨励金を交付することで、初動期の事業の健全化と、新たな事業展開への契機へと繋げる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

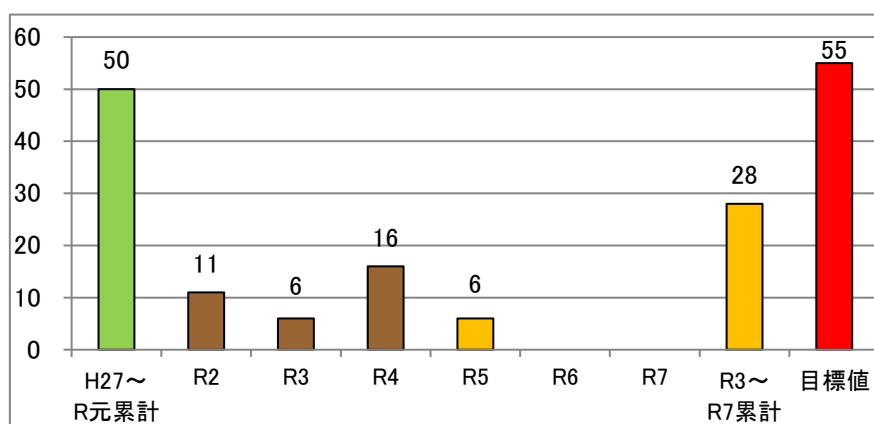
「宮後浦口線整備事業」による伊勢銀座新道商店街の道路再整備が完了するなど、各ハード事業が順調に進捗している。ソフト事業においては、商店街の各イベントが再開され大きな賑わいを創ったが、平時における歩行者通行量は令和3年度から減少し続ける結果となった。

今後、「伊勢市駅前C地区第一種市街地再開発事業」の完了に伴い、新規居住者や新規出店が見込まれることから、新たな賑わいの創出に繋がると考えられる。また、各商店街における賑わい創出イベントや、「宮後1丁目1号線整備事業」による伊勢市駅前商店街の道路再整備などにより、各商店街の魅力を向上させ、来街者の回遊意欲の増進を図ることで、歩行者通行量の増加に繋げる。

(2) 「新規出店数」(目標の達成状況【C】)

※目標設定の考え方は認定基本計画 P83～P84 参照

●調査結果と分析



※調査方法：現地確認及び商店街振興組合へ聞き取り

※調査月：令和6年3月

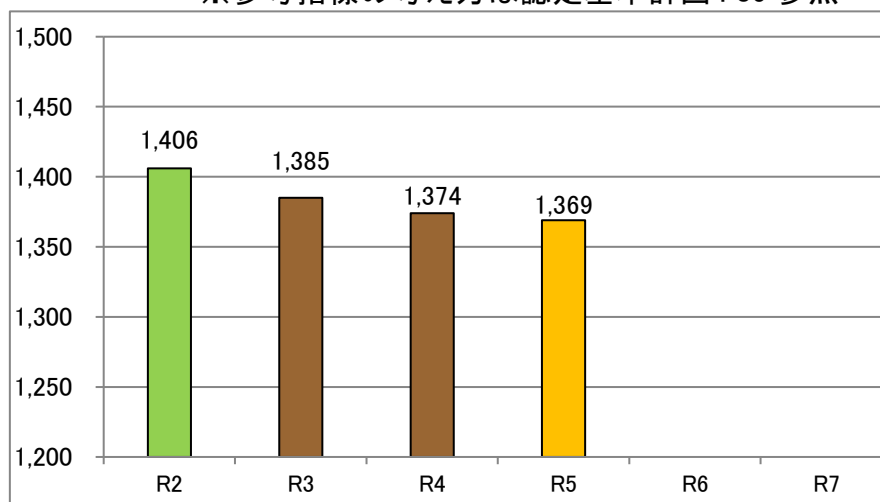
※調査主体：伊勢市

※調査対象：中心市街地活性化区域内の5つの商店街

年度	(店舗)
H26～R元	50 (基準値)
R2	11
R3	6
R4	16
R5	6 (最新値)
R3～R7	28 (累計)
R3～R7	55 (目標値)

【参考指標】中心市街地活性化区域内全体店舗数

※参考指標の考え方は認定基本計画 P85 参照



※調査方法：現地確認

※調査月：令和6年3月

※調査主体：伊勢市

※調査対象：中心市街地活性化区域

年度	(店舗)
R2	1,406
R3	1,385
R4	1,374
R5	1,369

〈分析内容〉

中心市街地活性化区域内の5つの商店街における新規出店数は、基準値(50店舗/5箇年)の年平均である10店舗を下回る6店舗となった。また、区域内全体の店舗数については、1,369店舗となり、令和4年度より5店舗減少した。

令和5年度から新設した、「商店街空き店舗対策支援事業」における空き店舗所有者への補助金交付実績も1件に留まったことから、「貸せる空き店舗」の創出が進まなかったことが、ひとつの要因であると考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 伊勢市駅前C地区第一種市街地再開発事業【再掲】（民間事業者）

事業実施期間	令和元年度～令和7年度【実施中】
事業概要	伊勢市駅前地区の再開発事業により、商業・住宅などの都市機能の更新を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（令和2年度～令和7年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 +3店舗 令和6年1月に解体工事が完了し、本体の建築工事に着手した。また、B地区1階においてマンション販売センター（マンションギャラリー）を開業するため、令和6年3月から内装工事に着手した。
事業の今後について	令和6年度から分譲を開始する予定。 また、令和8年2月に建築工事が完了する予定。

②. 創業支援事業（伊勢市）

事業実施期間	平成29年度～【実施中】
事業概要	市内での創業や第二創業、市外から事業所移転を行う者にかかる創業・移転に必要な経費の一部を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和3年4月～令和8年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 +15店舗 創業・移転促進補助金について、34件（区域内6件、区域外28件）の交付を決定しており、前年度並みのペースで活用された。
事業の今後について	引き続き制度のPRを行うとともに、創業予定地を検討している方々に対し、中心市街地内への出店を促進する。

③. 商店街空き店舗対策支援事業（伊勢市、伊勢まちづくり株式会社）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	商店街等が区域の不足業種やニーズに適う業種を空き店舗に誘致する事業、空き店舗を市民に開放し、ギャラリー等として活用する事業に対して、まちづくり会社が補助をする。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>事業目標値 +30 店舗</p> <p>令和 5 年度より実施した空き店舗所有者への支援については、商店街に対して伊勢市商店街連合会の会議において制度の P R を行ったものの補助金の利用件数は 1 件に留まった。しかし、利用には至らなかったものの、不動産会社及び空き店舗所有者からの相談が約 10 件あり、この内 2 件は次年度の申請に向けて調整中である。</p> <p>また、新規出店時の補助金利用件数は 5 件あったほか、年度末にも 5 件の相談があり、予算額と出店時期を精査した中で、次年度の申請を見込んでいる。</p>
事業の今後について	制度の P R を再度行うとともに、各商店街等と共に空き店舗への出店誘致に努めるほか、空き店舗所有者に対する支援についても引き続き取り組む。

④. 商店街等振興対策事業【再掲】（伊勢市、伊勢まちづくり株式会社）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	消費者に魅力ある商店街づくりのために行う事業に対して補助をする。また、中心市街地において商店街等が行うイベント等を、伊勢まちづくり株式会社が情報発信する。さらに、商店街等における歩行者通行量調査について、AI カメラを活用した実証実験を行い、得られたデータを分析活用するとともに、その効果を検証する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（中心市街地活性化区域）（国土交通省）（令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	新型コロナウイルス感染症収束後の地域活性化や消費喚起のために実施する商店街等の継続事業に対し、令和5年度に限り「商業まちづくり補助金」を増額することとした。商店街等が実施するイベントへ、新規事業3件、継続事業3件、合計6件の補助金交付を行った。 また、AIカメラ事業については、毎月のデータを商店街等各団体で共有したほか、イベント開催時の歩行者通行量や年齢層、性別などのデータを収集・分析し、分析結果を基にした商品やサービスの提供を商店街が検討するなど、データの有効活用を図った。
事業の今後について	令和6年度は、「商業まちづくり補助金」にて引き続き商店街のイベント支援を行い、AIカメラ事業では全9ヶ所のうち4ヶ所を撤去し、残りの5商店街にて事業を継続する。

⑤. 商業魅力アップ支援事業（伊勢市）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	地域住民や観光客のニーズに応えた商業環境の整備やにぎわいの創出に新たに取り組む商業団体等に対して、事業費の一部を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和3年4月～令和8年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	市内の団体に対して2件（いずれも区域内）の補助金交付を決定している。その他、申請に向けた問合せを1件受けたが、申請には至らなかった。 昨年度に比較して申請及び問い合わせ件数はやや減少しているが、これは新型コロナウイルス感染症感染拡大対策に伴う活動停滞の反動により、昨年度の交付件数が例年に比べて特に高かったことが要因であると考えられる。
事業の今後について	市内の経済や団体の動向を注視して、補助対象の見直しについて検討していく。

⑥. 伊勢市駅前商店街活性化事業【再掲】（伊勢市駅前商店街振興組合）

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	組合活動と商店街地区活性化のため、組合の既存ビジョン・プランの更新、市街地再開発事業の事業者との連携を継続することで、伊勢市駅前の新たなにぎわいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	『商店街等振興対策事業』と連携し、伊勢市健康福祉ステーション開業の令和 5 年 5 月 13 日、伊勢まつりの令和 5 年 10 月 8 日に「伊勢市駅前商店街令和 5 年度活性化事業」を行った。同事業では、観光客向けであった商店街マップを伊勢市民向けのマップに刷新したほか、商店街において「地元になぎわい抽選会」も実施して PR に努めた。
事業の今後について	新マップ等を利用し、今後も商店街のアピールに努める。

⑦. しんみち未来創造事業【再掲】（伊勢銀座新道商店街振興組合）

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	商店街の将来像を定めた既存ビジョンの更新、またこれに基づいた組合事業を継続し、複数ある空き店舗の削減、来客数の増加を目指し、商店街の魅力向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 5 年 7 月 22 日に 4 年ぶりとなる「伊勢の夜祭り」を開催して多くの人で賑わった。同日の歩行者通行量は 4,600 人であった。 また、令和 5 年 10 月 7 日、8 日の伊勢まつり開催時には、4 年ぶりとなる「テント市」「屋台村」と、新規イベントとして「伊勢名店会テント市」を開催したほか、令和 5 年 12 月から令和 6 年 1 月には「しんみちイルミネーションプロムナード」を継続して開催。点灯式では宇治山田商業高等学校と共にミニゲームなどで楽しむイベント「山商×しんみちフェスタ」を行い、新道商店街として集客の強化及び、観光客の取り込みを図った。
事業の今後について	今後も夏の「伊勢の夜祭」と冬の「しんみちイルミネーションプロムナード」を新道商店街のイベント二本柱として継続して開催するほか、これらのイベントで収集した歩行者通行量データを基にイベントの分析にも取り組む。

⑧. 繋ぐ高柳希望の風事業【再掲】（伊勢高柳商店街振興組合）

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	平成 30 年に発生した商店街中心部の火災事故跡地である被災空地の利活用を主として作成した商店街ビジョンを基に、被災空地活用の事業検討、減少する組合員数、増える空き店舗等の課題へ取り組み、100 年以上の歴史をもつ商店街を次世紀へと繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 5 年度は 4 年ぶりに「高柳の夜店」を開催。これまで以上に 10 代から 20 代の若者が多く集まり、開催期間中の歩行者通行量は延べ 15 万人、前年の約 7 倍となった。 「高柳の夜店」実施後の 7 月 14 日から 17 日は「商店街等振興対策事業」の商業まちづくり補助金を利用し、新規イベントとして「大人の夜店・ビアガーデン」を 20 代から 40 代の年齢層をターゲットにして開催。同期間の歩行者通行量は約 4 千人であった。 伊勢まつりに合わせた令和 5 年 10 月 7 日～9 日には 5 年ぶりとなる「いただきフェス」を開催し、歩行者通行量は 4 万人を記録するなど、新型コロナウイルス感染症の影響からの賑わいの回復を実感した一方で、前年からの継続イベントとなった令和 5 年 11 月 17 日から 28 日に開催した「第 2 回北海道フェア」では、1 日当たりの歩行者数が前年比の 26%に落ち込むなど、課題を残す結果となった。
事業の今後について	大盛況となった伊勢の夏の風物詩「高柳の夜店」や、伊勢まつりに合わせた「いただきフェス」を継続して開催し、高柳商店街のイベント三本柱としての確立を予定していた「北海道フェア」の課題を精査し、商店街の活性化に向け今後のイベントのあり方を検討する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

空き店舗所有者への補助金について、補助金交付実績は 1 件に留まったが、相談件数は 10 件以上あり、徐々に制度の周知が図られたと考えられる。今後、制度の改善や周知をさらに進めることで、補助金申請件数の増加に繋げる。また、関連事業の改善を商店街や伊勢まちづくり株式会社と連携して進めることにより、新規出店の促進に繋げ、目標達成を目指す。

(3) 「中心市街地の居住人口の社会増減」(目標の達成状況【 B 】)

※目標設定の考え方認定基本計画 P85～P86 参照

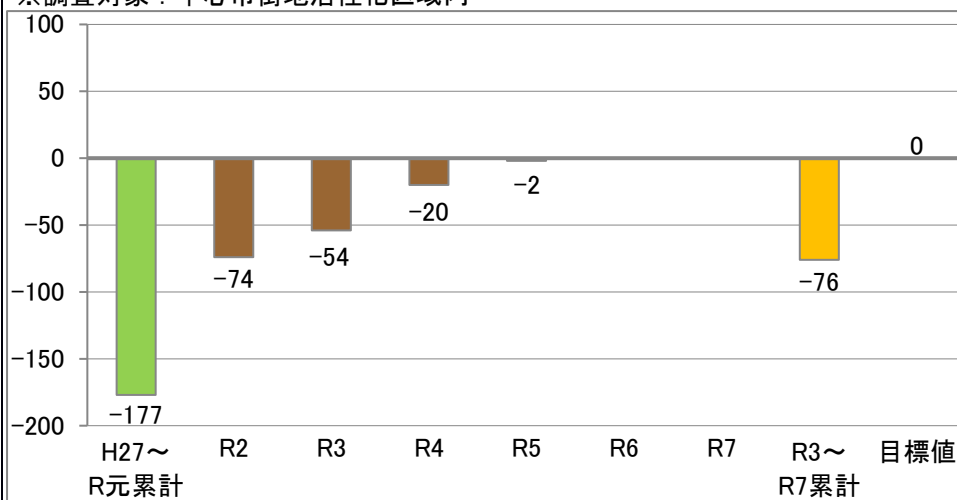
●調査結果と分析

※調査方法：住民基本台帳

※調査月：令和5年4月～令和6年3月

※調査主体：伊勢市

※調査対象：中心市街地活性化区域内



年度	(人)
H27～	-177
R元	(基準値)
R2	-74
R3	-54
R4	-20
R5	-2
	(最新値)
R3～	-76
R7	(累計)
R3～	±0
R7	(目標値)

〈分析内容〉

中心市街地の居住人口の社会増減について、目標値をわずかに下回る結果となり、令和4年度からの改善が見られた。伊勢市駅前地区第一種市街地再開発事業（B地区）の複合施設における賃貸住宅の入居が進んだことが、ひとつの要因であると考えられる。また、市の中心市街地外から中心市街地内への転居、中心市街地内から中心市街地外への転居、これらの合計が14人の増加となり、令和4年度の11人減少から改善することとなった。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 伊勢市駅前C地区第一種市街地再開発事業【再掲】（民間事業者）

事業実施期間	令和元年度～令和7年度【実施中】
事業概要	伊勢市駅前地区の再開発事業により、商業・住宅などの都市機能の更新を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（令和2年度～令和7年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 +140人 令和6年1月に解体工事が完了し、本体の建築工事に着手した。また、B地区1階においてマンション販売センター（マンションギャラリー）を開業するため、令和6年3月から内装工事に着手した。
事業の今後について	令和6年度から分譲を開始する予定。 また、令和8年2月に建築工事が完了する予定。

②. 空家対策事業【再掲】（伊勢市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	移住者等を対象とした空家の活用促進を通じて、空家の再利用と移住者等の定住による人口増を図る。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（中心市街地活性化区域）（国土交通省）（令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	本年度は、空家バンク制度について、周知啓発に取り組み、30件の空家が新規に物件登録されたが、中心市街地活性化区域内の空家については、処分に困っていない、又は空家バンク制度以外で売却等をしている等の要因により、新規物件登録は無く、登録済物件（1件）においては、物件の状態及び金額等の要因により、再利用等はされていない。 また、令和5年度新設の空家リフォーム促進事業補助金について、8件に対し補助を行ったが、中心市街地活性化区域所在物件の申請は無い状況である。
事業の今後について	本年度に引き続き、チラシ等により空家バンク登録の促進及び空家リフォーム補助の周知啓発を行い、空家所有者等の利活用に関する意識の向上及び空家の再利用の促進を図っていく。また、移住希望者及び不動産関係団体に対して、空家リフォーム補助及び令和6年度新設予定の空家購入補助について周知を行っていく。

③. 空家総合事業【再掲】（伊勢市）

事業実施期間	平成29年度～【実施中】
事業概要	空家の適正管理の周知、実態調査、危険空家の除却推進等、計画的な空家対策を推進する。
国の支援措置名及び支援期間	空き家対策総合支援事業（国土交通省）（令和2年度～）
事業目標値・最新値及び進捗状況	本年度は、第2期伊勢市空家等対策計画に基づき、空家の適正管理の啓発について、固定資産税納税通知書約6万通へのチラシ同封、及び被保険者死亡による保険料の変更通知である後期高齢者医療保険料額決定納入通知書約1,500通へのチラシ同封を行うなど、空家対応を促すよう広報周知を実施した。また、危険度が高いと判断された物件から所有者の調査を実施し、管理依頼を行っており、老朽化した危険な不良空家7件（うち中心市街地活性化区域内3件）に対し除却補助を実施するなど、周辺地域の居住環境の向上に寄与することができた。
事業の今後について	本年度に引き続き、空家法及び第2期伊勢市空家等対策計画に基づき、管理不全空家の所有者に管理依頼を実施し改善を求めるとともに、老朽化した危険な空家について早期除却をより促進することで居住環境の向上を図っていく。

④. 木造住宅耐震補強等事業（伊勢市）

事業実施期間	平成 21 年度～【実施中】
事業概要	木造住宅の居住安全性の確保あるいは除却を通じて、まちなかの居住環境の向上に寄与する。
国の支援措置名及び支援期間	防災・安全交付金（住宅・建築物安全ストック形成事業）（国土交通省）（平成 28 年度～）
お事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>本年度の補助金交付決定件数は、以下のとおりとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木造住宅無料耐震診断 区域内 23 件、区域外 145 件 ・耐震補強工事補助金 区域内 0 件、区域外 4 件 ・空家除却補助金 区域内 16 件、区域外 91 件 <p>耐震性のない木造住宅の耐震改修及び空家の除却工事が促進されたことにより、地域の安全性の向上に繋がった。</p>
事業の今後について	<p>令和 4 年度中に耐震診断を受けた木造住宅のうち、耐震改修工事や空家除却工事が未実施の住宅について、補助制度の案内を行うことにより、耐震対策を促進する。</p> <p>また、昭和 56 年 5 月 31 日以前に着工された木造住宅の所有者に対して戸別訪問を行い、地震の危険性や耐震改修に関する制度の案内を行うことで、耐震対策を促進する。</p>

⑤. まちなか移住創業促進事業【再掲】（伊勢市中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	伊勢市・商工会議所・まちづくり会社等の関係機関が連携し、主に市外、県外からの移住希望者を対象に、創業、就業、子育て支援等施策の PR や企画の検討、実施を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>伊勢市(企画調整課、商工労政課、住宅政策課、都市計画課)・伊勢商工会議所・伊勢まちづくり(株)が出席する「移住創業促進会議」を月 1 回の頻度で実施。以下について情報共有・意見交換を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三重県主催の大都市圏での相談会・説明会へのエントリー調整 ・空き家バンク制度、空き家に関する補助制度等の調整 ・市内企業インターンを促すための事業、補助制度等の調整 ・産官学連携事業に関するシビックプライド醸成事業の調整 ・創業・移転促進補助金制度の情報交換 ・移住 PR 動画の企画調整 ・地域おこし協力隊制度の情報交換
事業の今後について	移住創業促進会議を継続し、各団体が連携することで、各々が取り組む移住・創業に関連する施策、事業の調整、改善を行っていく。

⑥. 店舗新築・住宅等リフォーム促進事業（伊勢市）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	住宅や店舗のリフォーム・増改築及び店舗の新築を行う場合に、その工事費用の一部を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>令和 5 年度より事業の見直しを行い、住宅施策の一環として住宅政策課の空家リフォーム促進事業補助金と併せて、自らが居住する住宅のみを補助対象とする「住宅リフォーム促進事業補助金」を行っている。</p> <p>本事業請求時のアンケートによれば、本事業がリフォームを行うきっかけと回答した方が 50%以上であることから、住宅改修の意識高揚に繋がり、市内の住宅関連産業の振興に寄与していると考えられる。</p> <p>【令和 5 年度】※令和 6 年 3 月 31 日時点 予算額 1,000 万円 交付件数 市全体：201 件、中心市街地活性化区域内：23 件</p> <p>【令和 4 年度】 予算額 2,700 万円（当初予算 1,800 万円） 交付件数 市全体：281 件、中心市街地活性化区域内：22 件</p>
事業の今後について	今後の住宅施策を進めていく中で、市内の住宅事情の動向を注視して、補助対象の見直しについて検討していく。

⑦. 伊勢市健康福祉ステーション利用促進事業【再掲】（伊勢市）【令和 4 年度追加】

事業実施期間	令和 5 年度～【実施中】
事業概要	市街地再開発事業により、民間事業者が施行した伊勢市駅前地区の施設に入居する伊勢市健康福祉ステーションの利用者の駐車料金を無料化する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 5 年 5 月 8 日に開設した伊勢市健康福祉ステーションは、駐車場の利用を無料とし、令和 6 年 3 月末時点で延約 53,968 人の来所者がある。特に、乳幼児が保護者と共に遊ぶことができ、自宅から施設まで雨天時も濡れずに利用できる「駅前子育て支援センターキッズ☆もっとテラス」では、オープンから約 3 か月半で 1 万人の利用者を迎えるなど、駅前への人流拡大に貢献した。
事業の今後について	引き続き伊勢市健康福祉ステーションの利用者については駐車場無料化を継続し、全市民の健康と福祉を総合的に支援する施設として事業を継続し、駅前への来訪者拡大に寄与する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「伊勢市駅前C地区第一種市街地再開発事業」による分譲住宅の供給を行うことで、居住の促進を図り、目標達成に繋げる。

また、「木造住宅耐震補強等事業」や「住宅リフォーム促進事業」について、一定の利用が続いていることから、安全で快適な居住環境の構築が進んでおり、人口社会増に繋がると考えられる。

引き続き、空き家物件の登録が進むように事業を進めていくとともに、令和6年度から新設する、空き家購入補助金事業の活用がされるよう、周知を努める等、空き家の更なる利活用を推進する。

(4) 「観光関連施設等の利用者数」(目標の達成状況【C】)

※目標設定の考え方認定基本計画 P87~P89 参照

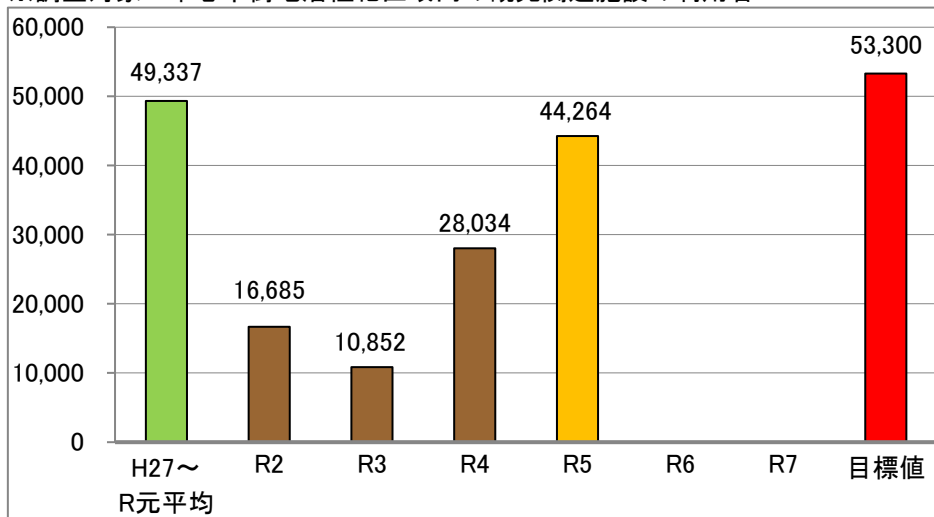
●調査結果と分析

※調査方法：観光統計

※調査月：令和5年1月~令和5年12月

※調査主体：伊勢市

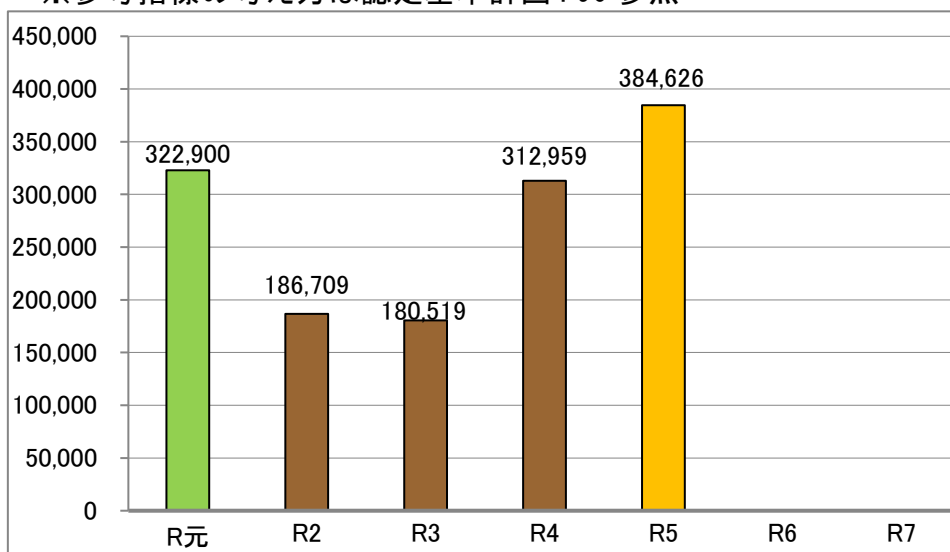
※調査対象：中心市街地活性化区域内の観光関連施設の利用者



年度	(人)
H27~	49,337
R元	(基準値)
R2	16,685
R3	10,852
R4	28,034
R5	44,264
	(最新値)
R7	53,300
	(目標値)

【参考指標】中心市街地内宿泊施設の宿泊者数

※参考指標の考え方は認定基本計画 P90 参照



年度	(人)
R1	322,900
R2	186,709
R3	180,519
R4	312,959
R5	384,626

※調査方法：宿泊施設へ聞き取り

※調査月：令和6年3月

※調査主体：伊勢市

※調査対象：中心市街地活性化区域

〈分析内容〉

目標指標の「観光関連施設等の利用者数」は44,264人となり、基準値を下回る結果となったが、令和4年度の実績から大きく数字を伸ばした。また、参考指標である「中心市街地内宿泊施設の宿泊者数」についても、令和4年度の実績から大きく数字を伸ばす結果となった。市街地再開発事業で建設した複合ビルにおいて宿泊施設が開業されたことが、ひとつの要因であると考えられる。

伊勢神宮（内宮・外宮）参拝者数についても、令和4年の6,037,417人に対して、令和5年が7,173,329人となり、新型コロナウイルス感染症が収束し、以前の水準に戻りつつあるといえる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 伊勢神宮奉納全国花火大会（伊勢神宮奉納全国花火大会委員会）

事業実施期間	昭和28年度～【実施中】
事業概要	全国各地から選抜された花火師たちが神宮に花火を奉納し、日頃の研鑽の成果を神都伊勢の夜空に放揚する「伊勢神宮奉納全国花火大会」を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和3年4月～令和8年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和5年度大会については、令和5年7月15日に4年ぶりに開催し、商店街を含む中心市街地の人流も増加し、賑わい創出に繋がった。大会当日の観覧者数は約21万人となった。
事業の今後について	令和6年度大会は、令和6年7月13日に開催予定。

②. お伊勢さんマラソン（お伊勢さんマラソン実行委員会）

事業実施期間	昭和 57 年度～【実施中】
事業概要	伊勢市出身でアテネ五輪女子マラソン金メダリストの野口みずき氏を大会長に迎えて「野口みずき杯中日三重お伊勢さんマラソン」を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 5 年度のお伊勢さんマラソンは、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが 5 類に移行したことをうけ、連続出場賞や物産展、サンプリングブースなどを完全復活し、本大会初の試みであるエイド（補給食）を取り入れた結果、本年度の総エントリー数は 9,643 人となり、定員である 11,160 人は下回ったものの昨年度から 1,314 人増となった。 また、大会宿泊プランにおいて中心市街地エリアの宿泊施設が利用され、大会会場の物産展には中心市街地店舗が出店し、参加者への PR を行った。
事業の今後について	県内の他のマラソン大会とのコラボ企画や参加賞の改良等を行い、より魅力ある大会を開催することで、市外及び県外からの参加者数を増加させる。マラソン参加者への中心市街地エリアへの宿泊や飲食利用等を促し、中心市街地のにぎわい創出を図り観光消費を上げていく。

③. 駅前等イルミネーション事業（伊勢市）

事業実施期間	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	伊勢市の玄関口にあたる伊勢市駅と宇治山田駅前広場及び伊勢市駅前商店街にイルミネーションによる灯りの演出をする。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	伊勢市駅前と宇治山田駅前、伊勢市駅前商店街にイルミネーションを装飾し、中心市街地の夜の魅力と周遊性を高めるための空間を演出した。 設置期間：11 月 22 日～2 月 16 日
事業の今後について	イルミネーションによる灯りの演出により中心市街地エリアにおける夜の魅力創出を図り、飲食店等の周遊を促して観光消費を上げていく。

④. 公共交通機関とのタイアップキャンペーン事業【再掲】（伊勢市）

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	公共交通機関とタイアップし、旅行商品と連動させたポスター等を作成し、主要駅のポスター枠やデジタルサイネージ等に掲出する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	東海旅客鉄道とのタイアップによる東京駅等でのポスター展開について、上期（4 月～9 月）は 4 月～9 月に、下期（10 月～3 月）は 11 月から掲出した。また、連動する旅行商品については、上期 4,438 件、下期 5,063 件の販売実績となり、市内における特典のクーポン引換実績については、上期 2,515 件、下期 3,064 件であった。新型コロナウイルス感染症が収束し、旅行需要が大きく回復したため、昨年度と比較して実績が増加している。
事業の今後について	令和 6 年度上期（4 月～9 月）事業は調整済みで、継続して事業を推進していくとともに、下期（10 月～3 月）についても事業継続に向け調整する予定である。

⑤. 着地型旅行商品造成事業【再掲】（伊勢市）

事業実施期間	平成 17 年度～【実施中】
事業概要	事業企画、旅行商品造成及びその販売促進を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	旅行商品の販売実績は 21,367 件であり、新型コロナウイルス感染症が収束し、旅行需要が大きく回復したため、昨年度と比較して実績が増加している。なお、今年度は新たな取り組みとして、SNS を活用した割引キャンペーンを実施した。
事業の今後について	令和 6 年度事業は調整済みのため、継続して事業を推進するとともに、クーポン内容のブラッシュアップや第 63 回神宮式年遷宮を見据えた旅行商品の開発を検討する。

⑥. ナイトタイムエコノミー推進事業（伊勢市観光協会）

事業実施期間	令和3年度～【実施中】
事業概要	夜間の地域経済を振興し、本計画地域において飲食業など夜間営業を行う業種へ新たな需要を喚起する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	夜の飲食店ガイドマップ「伊勢の夜」の情報を更新、5,000部を印刷して観光案内所や旅館等で配布した。
事業の今後について	夜の飲食店ガイドマップを観光案内所等で配布し、中心市街地の夜間営業を行う飲食店への誘客を図る。

⑦. 文化資源保存活用事業【再掲】（伊勢市）

事業実施期間	平成19年度～【実施中】
事業概要	「伊勢市全市博物館構想」に基づき、市全体を大きな博物館としてとらえ、全域に広がる博物館や自然・文化資産などを相互に連携させて有効活用を図る。各施設における企画展示や催し物の開催、季節に応じた見どころなどの情報発信、郷土資料館の整備などにより、誘客を図り、にぎわいを創出するものであり、中心市街地の活性化に必要な事業である。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和3年4月～令和8年3月） 中心市街地再活性化特別対策事業（総務省）（令和6年度～令和7年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	「伊勢まるごと博物館スタンプラリー」は市内外の博物館施設等にパンフレットを設置し、参加を案内しており、3施設以上まわった参加者19人に記念品を配布した。令和6年2月から、伊勢市へ転入された方に対して、賓日館、伊勢河崎商人館、尾崎罌堂記念館へ無料で入館できるチケットを配布する取り組みを開始した。 「夏休み博物館イベント」は、複数の施設で子ども対象の企画を催し、500人を超える参加があった。 また、いせ市民活動センターを会場とし、造船の歴史を紹介するための企画展「大湊 船と人」を開催し、500人を超える来場があった。 令和7年度中の郷土資料館の開設に向けて、整備内容を検討するための専門委員会を設置し、基本計画の策定業務に着手した。
事業の今後について	各博物館施設において、市民等に関心の高い催しの企画や、子どもの施設利用を促す企画等、来館者の増加につながる取組を進めていく。 郷土資料館の開設に向けて、令和6年度中に基本計画を策定し、整備工事の詳細設計を行う。

⑧. 観光客への情報提供事業（伊勢市）

事業実施期間	平成5年度～【実施中】
事業概要	「外国人観光客案内所」の認定を受けた観光案内所を年間365日開設し、観光客への適時適切な観光情報の提供を行う。中心市街地内にある外宮界隈の様々なお店で特典が受けられるクーポンの販売や、旅行商品のノベルティ交換の請負、レンタサイクルの貸し出し等を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和3年4月～令和8年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	窓口案内件数：77,713件（令和5年4月～令和6年3月） 観光案内所において窓口案内、パンフレット配布、電話問い合わせ等、市内を訪れる観光客に対して案内サービス等の観光情報の提供を行った。
事業の今後について	リモート案内システムの設置箇所の拡充やデジタルサイネージを活用した情報発信など、観光案内機能の強化や市内を訪れる観光客に対する新たなニーズに合わせた観光情報の提供を行い、中心市街地活性化を図っていく。

⑨. レンタサイクル事業（伊勢市観光協会）

事業実施期間	昭和50年度～【実施中】
事業概要	公共交通での利便性が悪い中心市街地のエリアへの観光客やビジネス客の手軽な交通手段として、レンタサイクルを提供する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	旅行会社等にて販売を行い、伊勢市駅手荷物預かり所、外宮前観光サービスセンターでの貸出は好調であった。レンタサイクル全体の利用台数は、前年比10%増と好調に推移している。
事業の今後について	レンタサイクル利用者の更なる利便増進を図るため、シェアサイクル事業者とも連携を図り、安心安全で利便性の高いレンタサイクルの利用環境づくりに努める。

⑩. まちなか案内事業【再掲】（伊勢商工会議所ほか）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	お伊勢さん観光案内人(商工会議所事業)、お伊勢さんまち歩きクーポン(まちづくり会社)等、地元住民から観光客まで、まちなかを案内するサービスを提供する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	「お伊勢さん観光案内人」事業は、新型コロナウイルス感染拡大対策として内宮のみの案内に留めたが、令和 5 年 9 月より両宮案内を再開した。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、停止していた案内人の新規募集及び研修も再開した。 「お伊勢さんまち歩きクーポン」は『地域資源を活かした商品開発事業』の「河崎蔵まちへの招待状」、「伊勢二見まち歩きクーポン」を統合して販売した。しかし、アプリの改善点を精査した結果、既存開発会社での改善が見込めないことから、令和 6 年 3 月 31 日をもって「お伊勢さんまち歩きクーポン」としての販売を終了した。
事業の今後について	「お伊勢さん観光案内人」事業は、両宮案内を再開したが、外宮のみの案内時の集金拠点は、新型コロナウイルス感染症の影響により無くなったこと等から再開時期を未定としている。 「お伊勢さんまち歩きクーポン」について、令和 6 年 4 月から「お伊勢さんまち歩きチケット」として、近畿日本鉄道(株)が運営するデジタルチケットサービス『ぶらりすと』で販売する。

⑪. 観光客受入推進事業（伊勢市）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	伊勢市が、伊勢地域観光交通対策協議会及び三重交通と協働で、パーク&バスライド利用者を対象に、外宮前-内宮前間の路線バス無料利用券を配布する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	外宮前-内宮前間の路線バス無料利用券の配布事業は実施しなかった。
事業の今後について	内宮エリアに過大に集中する観光客を市内へ周遊させることで、滞在時間の延伸、観光消費額の向上を目指し、関係機関、関係者と協議する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

目標値である「観光関連施設等の利用者数」について、基準値を下回る結果となったが、参考指標である「中心市街地内宿泊施設の宿泊者数」、伊勢神宮（内宮・外宮）参拝者数とともに、令和 4 年から大きく数字を伸ばしている。また、第 63 回神宮式年遷宮へ向けた諸行事が始まり、機運も高まってくることから、参拝者や観光客の増加が見込まれる。引き続き、関連事業を実施するとともに、事業のブラッシュアップを図ることで、目標達成は可能であると見込まれる。